

## New Horizon 第9回 Lessons

### Lesson 9-1: be 動詞の過去形 (肯定文)

ここで学ぶのは、be 動詞が過去形になる肯定文についてです。具体的には「私は彼のクラスにいました」「彼女は忙しかったです」といった文章です。基本的な文章の形は、現在形の時 (am/is/are が使われる場合) と同じなのですが、使われる be 動詞が was/were となります。

#### was

1. **am** と **is** の過去形。
2. 「主語は～でした」と言いたい時に使う。
3. 基本的な形 : I was ~. / She was ~. / It was ~. / Ken was ~. / That was ~. など。
4. 現在形では I'm / He's など「主語」と「be 動詞」の短縮形があったが、過去形の場合、基本的に I's / He's のような短縮形は使われない。

<例> 私は忙しかったです。 I **was** busy.  
ケン  
は医者でした。 Ken **was** a doctor.  
私の英語の授業は長かったです。 My English class **was** long.

#### were

1. **are** の過去形
2. 「主語は～でした」と言いたい時に使う。
3. 基本的な形 : You were ~. We were ~. They were ~.
4. 現在形では You're / They're など「主語」と「be 動詞」の短縮形があったが、過去形の場合、基本的に You're / We're のような短縮形は使われない。

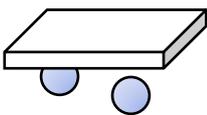
<例> 彼らは背が高かったです。 They **were** tall.  
あなたは東京にいました。 You **were** in Tokyo.  
私たちは静かでした。 We **were** quiet.

### Lesson 9-2: 前置詞④ (under / over / of / with)

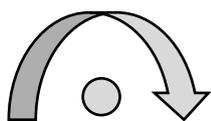
1. **under** = ~の下に / ~の真下に <何か下にくっついている。あるいは下にあるイメージ>

<例> Your bag is under the table. (あなたのカバンはテーブルの下にあります)

Let's sit under the tree. (木の下に座りましょう)



2. **over** = ~の上に (の・を) / ~をおおって / ~を超えて <弧を描くように覆うイメージ>



<例> Jump over the desk. (机の上を飛び越えて)

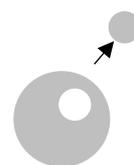
**【ポイント！】**

**over there / over here などの over を使った表現**

over there は「(距離がある) あそこ」という意味になります。例えば、Let's go over there. という「向こうの方へ行きましょう」というように、少し距離のある「あそこ」をさすこととなります。また、少し距離のあるところにいる人に向かっては、Come here. だけでなく、Come over here. ということができます。

3. **of** = ~の / ~の所有する / ~に属する <ある物の一部といったイメージ>

<例> What is the name of your teacher? (あなたの先生の名前は何ですか)  
That is the end of the movie. (それが映画の最後です)



**【注意事項】**

1. **the** ○○ **of** ~ (the name of ~ など) のように、最初には **the** が使われることが多い。その理由は、その後の **of** で「何の○○なのか」限定されているから。

<例> the number of our bus (私たちのバスの番号)  
<番号なら何でもよいのではなく、「私たちのバスの番号」と限定されている>

2. 日本語に訳す場合、**of** の後ろが「~の」となり、英語と順番が逆になるので注意。「後ろから訳す」と教える先生も多い。

<例> the number of our bus → 英語の順番は「番号、私たちのバスの」  
the name of your dog → 英語の順番は「名前、あなたの犬の」

4. **with** = ~と (一緒に) / ~で (道具を用いて) <つながっているイメージ>

<例> I study with Naomi every day. (私はナオミと一緒に毎日勉強します)  
You need to write your name with a pen. (あなたは、名前をペンで書く必要があります)



**【ポイント！】**

**1. 前置詞を使って名詞を説明する時は名詞の後に置く**

英語では、「舞台の上の人々」「東京にあるレストラン」のような文章は「人々+舞台の上の」「レストラン+東京にある」という形で表現されます。そのため、

<例> 舞台の上にいる人たち → **people on the stage**  
ベンチのそばの女の子 → **the girl by the bench**

のように「**名詞+前置詞のフレーズ**」となります。そして、これらを文章に入れますと

<例> 舞台の上にいる人たちが見えますか。  
→ Can you see the **people on the stage**?  
ベンチのそばの女の子は、ヒナです。  
→ **The girl by the bench** is Hina.

## 2. 「△△を身につけている〇〇」「△△を着ている〇〇」という場合、〇〇 **in** △△ となる

「△△を身につけている〇〇」という場合、主に **in** が使われます。基本的な形は、〇〇 **in** △△。その理由は「その服の中に入っている」というイメージでとらえられるからです。ただし「これから服を身につける（まだ身につけていない）」という場合は、**put**（置く/つけるなど）という動詞に **on** を付けて **put on** のように **on** が使われることもある。

<例> **The lady in the kimono** is my mother. (着物を身につけている女性は私の母です)  
**Put on** your socks. (靴下を履いて)

### Lesson 9-3: 文中に入る副詞（疑問文）

今回は、**always / sometimes / often** といった文中に入る副詞がどのように疑問文に足されるかについて学んでいきます。肯定文の際、これらの副詞は以下のように足されました。

be 動詞の文 = be 動詞の後に足される

<例> He is **often** busy. (彼は、しばしば忙しいです)

一般動詞の文 = 一般動詞の前に足される

<例> They **always** go to school by bus. (彼らはいつもバスで学校に行きます)

そして、疑問文を作る場合は、まず肯定文を作り、そこから疑問文を作る という順番で作ると簡単です。そこからでも同じとなります。つまり、

be 動詞の文 = be 動詞の後に副詞を足して肯定文を作る。そして、be 動詞を文頭に持ってくる

<例> He is **often** busy. (彼はしばしば忙しいです)

↓

**Is** he **often** busy? (彼はしばしば忙しいのですか)

一般動詞の文 = 一般動詞の前に副詞を足して肯定文を作る。そして、Do を文頭に足す

<例> They **always** go to school by bus. (彼らはいつもバスで学校に行きます)

↓

**Do** they **always** go to school by bus? (彼らはいつもバスで学校に行くのですか)

## Lesson 9-4: 様々なフレーズ⑥

### 1. 動詞 **ing** = ～すること / ～するのが

<例> I like playing the piano. <私はピアノを弾くことが好きです>

#### [補足説明]

動詞 **ing** の形は「動名詞」と呼ばれ、動詞を名詞の形にしたものとなる。文の主語になったり動詞の目的語（動詞の対象）になったりする。**ing** を足すルールとしては以下のものがある。

#### 1. 最後が e の場合 → e を取って ing

<例> dancing (踊ること)

#### 2. カタカナにした際、最後が「ッ」が入る → 最後の子音を重ねる

<例> getting (手に入れること) stopping (止まること)

#### 3. run / swim の場合 → running / swimming と最後の子音を重ねる

また、「動名詞+目的語」で「目的語をすること」という形にもすることができる  
(例: studying math = 数学を勉強すること)。

<例> Studying is fun. (勉強することは楽しいです) \*fun = 楽しいこと / 楽しみ  
I don't like studying math. (数学を勉強することは好きではないです)

### 2. **good at** ○○ = ○○が得意

<例> He is good at soccer. <彼はサッカーが得意です>

#### [補足説明]

○○のところに動名詞を入れることも可能。

<例> He is good at playing soccer. <彼はサッカーをすることが得意です>

### 3. **Let's** 命令文 = ～しましょう。

<例> Let's go to the fish market. <魚市場に行きましょう>

### 4. **That's a good idea.** = それは良い考えですね

<例> A: Let's play baseball. B: Good idea. <A: 野球をしましょう。 B: 良い考えですね>

#### [補足説明]

何かの提案に対して「賛成」の意を伝える時に使われる表現。That's を That is としたり、That's a の部分を省略して、Good idea. だけ使われたりすることもある。

5. No, thank you. / No, thanks. = (何かすすめられた際の) けっこうです / 大丈夫です

<例> A: Do you want coffee? B: No, thank you.

<A: コーヒーはいかがですか。 B: 大丈夫です>

〔補足説明〕

No, thank you. / No, thanks は、言い方によっては強い断りに聞こえてしまうので注意が必要。何かすすめられた際にやんわり断るには、I'm OK. Thank you. などが無難。

6. Look at ~. = ~に目を向ける

<例> Look at the door. <ドアに目を向けて>

〔補足説明〕

Look は「見る」とよく訳されるが「目を向ける」という意味の方が正しい。そのため、look の後に at ~ とすることで「~に目を向ける」という意味になる。

### Lesson 9-5: some と any

some と any は、両方とも「いくつか / いくらか」という意味で可算名詞・不可算名詞の両方を修飾する形で使うことができます。

<例> 私は、いくつかリンゴを持っています。(可算)

私は、いくらか水を飲みたいです。(不可算)

しかし、some と any は同じ扱われ方をするか・・・と言ったらそうではありません。基本的に some は、肯定文で「いくつか / いくらか」という意味を表し、any は疑問文で「いくつか / いくらか」という意味を表します。また、否定文で any を使うと「少しもない / 全く無い」という意味を表すことができます。

#### 【some と any】

1. some と any は、両方とも「いくつか / いくらか」という意味で使われる。
2. 肯定文 / 否定文 / 疑問文によって使い分けがされる。
3. 可算名詞に some / any が足される場合、可算名詞は基本的に複数形が使われる。

some = (肯定文で) いくつか / いくらか

<例> I \*want some apples. (私はいくつかリンゴが欲しいです)

I have some water. (私はいくらか水を持っています)

\*want = ほしい

any = (疑問文で) いくつか / いくらか / 何か

<例> Do you want any apples? (あなたは、いくつかリンゴが欲しいですか)

Do you have any water? (あなたは、いくらか水を持っていますか)

**not ~ any = (否定文で) 少しでも~ない / 全く~ない**

<例> I don't want any apples. (私は、少しでもリンゴが欲しくないです)

I don't have any water. (私は、全く水を持っていません)

《例外の形》

疑問文でも some が使われることもあります。これは、肯定の答えを予想したり、物をすすめたりする時に使われる。

<例> Do you want some water? (水はいかがですか?)

【レストランなどで水をすすめられている場合】

【ポイント！】

**many は「たくさんの〇〇 (〇〇=可算名詞)」という意味なので注意**

some/any と似たような意味で many という単語がありますが、many は「たくさんの〇〇 (〇〇=可算名詞)」という意味なので注意してください (疑問文・否定文でも使えます)。

<例> I have many CDs. (私はたくさんの CD を持っています)

Do you have many CDs? (あなたはたくさんの CD を持っているのですか)

I don't have many CDs. (私はたくさんの CD は持っていません)